

淡路島巡りの旅

まえがき

2月10日と11日は連休であった。どこかに旅したいという気持ちはあったものの、行き先が決まらずにいた。9日の夜になって突然淡路島に行くことを決めた。インターネットで「水仙が見頃」という情報を得たことと、民宿を予約できたことが決め手となった。

バスツアーで人気の高い「灘黒岩水仙郷」と「七福神巡り」は予定に入れて行ったが、

七福神巡りにどれだけ時間がかかるのか皆目見当が付かなかったこともあり、気の向くままと決め込んで出発した。

灘黒岩水仙郷と七福神巡りを1日で終わることができたので、翌日は淡路夢舞台、道の駅あわじ、野島断層保存館を見学した。これらは灘黒岩水仙郷のレストランで入手した「国立公園淡路島おもしろマップ」を見て決めた。



旅の日程

2月10日

自宅(8:15) 灘黒岩水仙郷(11:30~12:40)
護国寺(13:35) 万福寺(14:00) 覚住寺
(14:20) おのころ島神社(14:40) 長林寺
(15:10) 智禅寺(15:30) 伊弉諾神宮
(16:00) 宝生寺(16:40) 八浄寺(17:15)
民宿大倉荘(17:30) 天然温泉東浦花の湯

2月11日

民宿(9:10) 淡路夢舞台(9:20~13:10) 道
の駅あわじ(13:30) 野島断層保存館
(14:40) 北淡IC(15:30) 自宅(18:10)



強風で制限速度 40km の大鳴門大橋

灘黒岩水仙郷

神戸淡路鳴門自動車道の西淡三原 IC を降り、県道 31 号阿万バイパス通って南に走る。そして海岸線に出て、県道 76 号線を東に走る。落石が多いのだろう、斜面にはポケット式ロックネットが張り巡らされていた。

灘黒岩水仙郷の 6km ほど手前の土生港で交通整理のガードマンに止められた。この先にある 4 箇所の臨時駐車場は満車の様子。このため、港の空き地の臨時駐車場に誘導される。私たちがここに駐車する最初のグループであったが、続々とマイカーの観光客が詰めかけて、あっという間に駐車

場が埋まった。水仙郷までは無料の小型シャトルバスが運行していた。

灘黒岩水仙郷は、水仙の日本三大群生地。今から約 180 年前に付近の漁民が海岸に漂着した球根を山に植えたのがだんだん繁殖したとされている。入園料は一人 500 円。45 度の急斜面の一带に野生の水仙が咲き誇っている。約 7 ヘクタールにわたって 500 万本あるとのこと。



ロックネットが張り巡らされた県道 76 号



観光客の列



梅の花も満開



野生のニホンスイセン



500万本の水仙による純白の絨毯

七福神巡り

七福神とは七人の福の神様。えびすさま(恵比寿), だいこくさま(大黒天), びしゃもんさま(毘沙門天), べんてんさま(弁財天), ふくろくじゅ(福祿寿), じゅろうじん(寿老人), ほていさま(布袋尊)である。

七福神巡りの風習は全国各地にあるが、淡路島の七福神巡りは人気が高く、近畿や四国からのバスツアー客が多い。

護国寺

護国寺は、和合の神様である布袋尊を祀るお寺。西淡三原 IC を降りて直ぐの、県道 31 号線と国道 28 号線が交差する近くに位置している。

布袋尊とは、中国、後梁の時代の禅僧で、七福神の中では唯一実在の人物。袋の中の

財宝で貧者救済を行うとされ、福々しい容姿・容貌から福德円満の神として信仰が厚い。

お寺の裏には立派な日本庭園があった。七福神巡りで繁盛している様子が伺える。

護国寺の横には、由緒ある八幡神社があった。参拝者はいない。



護国寺の正面



瓦で造られた布袋尊の像がある

万福寺

万福寺は護国寺の近くにある。

商売繁昌の神様である恵比寿さんは、七福神の中では唯一国産の神様。伊邪那岐命(いざなぎのみこと)と伊邪那美命(いざなみのみこと)の第三子蛭子尊(ひるこのみこと)といわれている。本来は豊漁の神であったが、商業の神としても信仰を集めるようになっている。

万福寺では「恵比寿神」でなく、「恵美酒

太神」と表示している。「美味しい酒に恵まれる太神」の意味。若い僧侶がお経を唱え、ツアー客に恵比寿神の説明をしていた。

本堂の中には大きな恵美酒太神の木像が安置されていた。身体の悪いところと同じ箇所をさすれば病気が治るとのこと。



恵美酒大神を祀る万福寺



恵美酒大神の木像

覚住寺（かくじゅうじ）。

覚住寺は、開運厄除と大願成就の神様である毘沙門天を祀っている。聖徳太子の勅詔で創建されたという島内最古の寺院。

毘沙門天は、帝釈天の四天王の一仏で、別名多聞天というインドの神様。

お寺の庭には「顔ハメ」が置かれていた。ベニヤ板にその寺の福の神を描いたもので、顔の部分に穴を空けてある。

今回の旅で、妻には「顔ハメ」に顔を突っ込む趣味があることを初めて知った。



島内最古の寺院覚住寺



毘沙門天の顔ハメ



小さなわら草履は何の意味か



覚住寺の横にある上田八幡宮

長林寺

長林寺は福祿寿を祀る寺。

福祿寿の名前の由来は、福(幸福)、祿(俸祿)、寿(長寿)であり、この三徳を授けるものとされる。

長林寺の下を通る道路脇のため池で、明石海峡大橋の 1/100 模型を見つけた。橋面には模型自動車も走っている。夜にはライトアップしているようである。橋の全長は 39m(実物は 3911m)。制作費は半端ではなからう。世の中には物好きがいる者である。



長林寺本堂



明石海峡大橋の 1/100 模型

智禅寺

智禅寺は、恋愛成就、学問成就の神様で七福神中唯一の女神である弁天様(弁財天)を祀っている。

弁財天は、元はインドの河(水)神。ど

の寺に行っても、僧侶がツアー客にお経と唱え説法をしていた。いずれの僧侶も口達者であったが、とりわけこの寺の僧侶は話術が巧みであった。漫才師としてでも食っていけるだろうが、一步間違えばペテン師になりかねないとも思えた。



智禅寺



京都の銀閣寺を思わず智禅寺の庭

宝生寺

宝生寺は、長寿延命の神様である寿老人を祀っている。

中国宋代の仙人である寿星の化身とされる。玄鹿を引き連れ、桃を手を持つことから長寿の象徴とされる。

本堂の中には、「ぼけない為の五箇条」と書かれた紙が貼ってあった。七福神巡りツアーは高齢の女性が多い。ツアーの参拝者に受けるのだろう。



宝生寺



七福神巡り寺院中で最も立派な八浄寺



ぼけない為の五箇条



大黒様の像の台には念ずれば花開くと書かれている。

八浄寺

八浄寺は、五穀豊穰や子孫愛育の神とされる大黒天を祀る寺。

インドの戦闘神シヴァの化身といわれる。中国を経て我国に伝来した後、大国主命(おおくにぬしのみこと)と習合し、大地を掌握する農業の神として民間信仰の対象とされた。福德開運、財産授与のご利益もあり、七福神の中では、恵比寿と並び最もなじみ深い。

七福神巡りのお寺の中では、この寺が最も繁盛しているようで、豪華であった。

この寺にたどり着いたのは、17時を15分過ぎていた。境内に入ることはできたが、本堂は既に閉じられて中で掃除をしていた。



大黒様の顔ハメ

神社

おのころ島神社

覚住寺から長林寺に向かう途中で朱塗りの大鳥居が目に入ったので立ち寄った。

おのころ島神社がある場所は、日本の神々誕生の聖地、日本国土の発祥の地として古事記、日本書紀などにも登場する伝説

の「おのころ島」だと言われている。

古事記，日本書紀の国生み神話に登場する伊弉諾命（いざなぎのみこと），伊弉冉命（いざなみのみこと）の二神が天上の「天の浮橋」に立って，「天の沼矛」をもって青海原をかきまわし，その矛を引き上げたときに矛の先から滴り落ちる潮が凝り固まって一つの島となった。これが自凝島「おのころ島」で，次にできたのが淡道之穂之狭別島（あはじのほのさわけのしま）で今の淡路島とされている。

ここの鳥居は，日本三大鳥居のひとつで，高さ 21.7m，柱の直径は 3m ある。



日本一の大鳥居



おのころ島神社

伊弉諾神宮(いざなぎじんぐう)

淡路島が日本国土の発祥の地であるため熱心な信者が多いのであろうか，立派な神社・仏閣に至る所にある。その数は 400 余りと言われているが，現在でも維持管理が行き届き，きれいに保存されているのには驚かされる。

その中の代表的な神社が淡路市（旧津名郡一宮町）多賀にある伊弉諾神宮。智禅寺から宝生寺へ移動する途中で見かけたので駐車して参拝した。

かつての地名「一宮町」は，当社が一の宮であることに拠っていた。通称「いっく（一宮）さん」である。正月になると初詣客で歩けないほど賑わうようである。

日本神話の国産みに登場する伊弉諾尊（いざなぎのみこと）と伊弉冉尊（いざなみのみこと）を祀っている。



伊弉諾神宮の参道



伊弉諾神宮の境内



伊弉諾神宮の本殿



民宿大倉荘



根元が1つになっている夫婦大楠



お釈迦様の巨大な像

民宿

宿泊は国道28号添いの民宿大倉荘。七福神巡り最後の八淨寺から約10分の距離。17時30分に到着した。

道中に、異常に大きなお釈迦様の像を見かけた。民宿の人の話では、経営破綻して今は競売にかけているとのこと。

食事の前に女将に勧められて近くの天然温泉「東浦花の湯」に行く。民宿から徒歩では遠すぎる距離。淡路市の市営宿泊施設東浦サンパークに併設された温泉で、入浴料は500円と安い。

体を温めてから民宿に戻り、生ビールと芋焼酎をそれぞれ1杯飲みながら懐石料理に舌鼓みを打つ。刺身の盛り合わせ、鯛の煮物が新鮮で美味しい。淡路島名物の「宝楽焼」を食べられなかったのが残念。

淡路夢舞台

淡路島にこんなに素晴らしいところがあるとは夢にも思わなかった。

海を埋め立てて関西国際空港を造るための土を採取した跡地を整備し、自然を回復させ公園として再生したのが淡路夢舞台。2000年にはここで『淡路花博ジャパンフローラ2000』が開催されている。

淡路夢舞台には、ウェスティンホテル、レストランやショップ、早咲きのチューリップなどの球根花をはじめとし四季折々の花を咲かせる展望台を兼ねた百段苑、プロムナードガーデンなどがある。

淡路夢舞台に隣接して北側には、広大な規模の淡路国営明石海峡公園がある。



淡路夢舞台

プロムナードガーデン

淡路夢舞台は民宿から車で5分程度の距離にあった。国道28号に面しているので直ぐに目に入った。

園内に入っていくと、淡路国営明石海峡公園の係員がいた。国営公園は9時30分、奇跡の星の植物館は10時からなのでまだ入れないこと、それまでは無料で自由に入れるプロムナードガーデンを散策するのがよい、冬咲きのチューリップが咲いてきれいだと教えてくれた。

地下駐車場(500円)に駐車し、上がっていくとウェスティンホテルに出た。淡路島では唯一の都会的の高級ホテルである。

プロムナードガーデンは、眼下に国営明石海峡公園や大阪湾を一望できる斜面の中

腹に位置している。

2002年2月から3年間にわたって、全長380mにわたる回廊風の庭園を舞台に、新しいガーデンのあり方を提案する淡路花博記念事業「国際ランドスケープ&ガーデニングコンペ」が開催され、選ばれた5名の出展者によりガーデニングの総合力を尽くした熱い戦いが繰り広げられたそうである。

プロムナードガーデンは入場料無料。百段苑の階段から上がることもできるが、花木林苑の木製階段からも上がれる。また、エレベータを利用することも可能である。苑内には、早咲きチューリップや、ハーブなどを楽しむことができる。



ウェスティンホテル淡路



プロムナードガーデンに上がる階段



ウェスティンホテル淡路の2階ロビー



プロムナードガーデン



花木林苑



プロムナードガーデン



早咲きチューリップ



プロムナードガーデンで見かけた目白



ハーブガーデンので香り楽しむ



世界各国のキク科植物がマス毎に植えられている



プロムナードガーデンからの展望



百段苑からの展望

百段苑

山の斜面に沿って1区画4.5㎡の花壇が100区画、階段状に連なっている。年間を通じて四季折々の世界のキク科植物が鑑賞できるようになっている。



100区画の花壇・百段苑

安藤忠雄の建築アート

ウェスティンホテル淡路、奇跡の星の植物館、植物園、百段苑、国際会議場、野外劇場、レストラン&ショップなど淡路夢舞台にある建築物は全て建築家安藤忠雄の設計である。

打ちっ放しのコンクリート、直線あるいは曲線の分厚いコンクリートの壁。夢舞台には安藤忠雄の得意技が至る所に散りばめられている。安藤の建築は建物と言うよりも芸術品である。作品をいろいろな角度から鑑賞できるように計算し尽くされている。私には、ルネッサンス時代を代表する天才芸術家レオナルド・ダ・ヴィンチさえも超えていると思える。土木屋の私でも身震いするほどの興奮と感動を覚えた。



100万枚の帆立貝が敷き詰められた貝の浜



海回廊・奥が奇跡の星の植物館



池の底に手作業で敷き詰められたホタテ貝



レストラン&ショップの屋上



レストラン&ショップの屋上



海回廊。奥がウェスティンホテル淡路



光が反射してきらきらと輝く



階段状の滝



楕円フォーラム



奇跡の星の植物館

淡路夢舞台ラン展 2008

奇跡の星の植物館は、敷地面積 6,700 m² を誇る日本最大級の温室。ガラスでできた 2 つの直方体が斜めに交差する独創的な形が特徴的。自然と人間の共生をテーマに、年間に何度も展示を変えるフラワーショースペースや、花と緑のある暮らしを提案す

るガーデンスペースがある。

建物は、いろいろな角度から植物を観察できるように工夫されている。

当日は、高知県立牧野植物園などの協力で「淡路夢舞台ラン展 2008」が開催されていた。開催期間は 2008 年 1 月 19 日～2 月 24 日。入場料は 1200 円であったが、高いとは思わなかった。十分に満足させてもらった。



奇跡の星の植物館の内部



二階の回廊から眺めたところ



シダ類



巨大なサボテン



ランのガーデニング



パフィオペディルムワーディ・アルバム



パフィオペディルムベヌスタム・アルバム



美しいランに囲まれて



日本庭園





植物館の中の喫茶エリア

明石海峡大橋

明石海峡大橋の写真を撮るために松帆アンカレイジパークに立ち寄った。天気は快晴で靄(もや)はかかっておらず、対岸の神戸市まではっきり見ることができた。

明石海峡大橋は橋長 3911m、主塔間距離 1991m で世界最長を誇る吊り橋である。建設工事中の 1995 年 1 月 17 日の兵庫県南部地震の影響で、3P 主塔(淡路側)の基礎が地盤ごと 1.1m ずれたため、中央支間長が当初計画より 1m 長くなっている。供用開始は 1998 年 4 月 5 日。今年の 4 月には開通 10 周年を迎える。

松帆アンカレイジパークには、明石海峡大橋の建設工事に使用した潜水艇、浮標などが展示されていた。

アンカレイジパークは「道の駅あわじ」になっており、その海鮮館ではホタテ、サザエ、エビ、タコなどの海鮮海鮮バーベキューや刺身を食べることができる。

残念なことに淡路夢舞台の中のレストランで昼食をすませてきた。他人が美味しそうに食べているのを見てよけい悔やまれた。



松帆アンカレイジパーク



10 年前に完成した世界一の明石海峡大橋



水深 60m の海底で作業するための潜水艇

北淡町震災記念公園

野島断層保存館

平成7年(1995年)1月17日午前5時46分、淡路島の北、明石海峡下の地下を震源とするマグニチュード7.2の直下型地震が発生した。兵庫県南部地震である。この地震で、北淡町江崎から野島に至る淡路島北西部の海岸沿いに延長10kmに及ぶ断層が現れた。野島断層である。

野島断層の南端部に近い小倉地区では、断層崖や断層による生垣や畑のあぜ道の食い違いなど様々な断層変位が地面に現れた。長さ140mに及ぶ断層は、国指定天然記念物として、かまぼこ型の建物で覆って保存されている。『野島断層保存館』である。解説がいろいろと工夫され、分かりやすく展示されている。



建物の中を走る断層



左側の地盤が滑り上がった



野島断層保存館の内部



野島断層の地下断面



建物で断層を保存している

メモリアルハウス

断層が横切った民家をメモリアルハウスとして保存していた。

民家とはいえ、鉄筋コンクリート構造の頑丈に作られた立派な家。震災後も4年間住んでいたようである。家を丈夫にすることが安全を確保する上で非常に重要であることがわかる。また、鉄筋コンクリート

構造の家は耐震性に優れていることが証明されたと言える。

メモリアルハウスでは、「地震直後の台所」を再現して展示していた。家具を固定することや食器棚が開かないようにしておくことの重要性を再認識させられた。

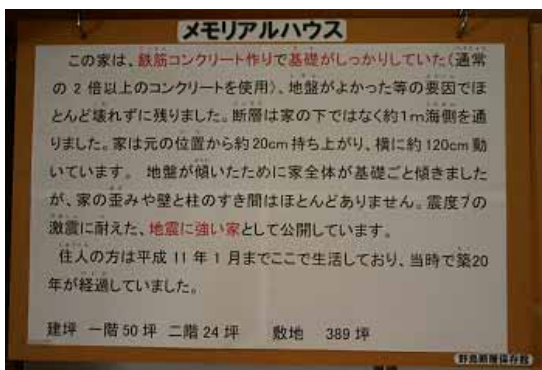
民家のブロック塀も保存されており、横に1.2mずれた様子がよくわかる。



野島断層が横切った民家



大きく横ずれしたブロック塀



メモリアルハウスの説明

震災体験館

震災体験館では、震度7と震度4の揺れを体験することができる。震度7の揺れは強烈である。建物によほど靱性(ねばり)がないと倒壊してしまうだろうと思えた。



地震直後を再現した台所



震度7の揺れを体験できる

憩いの広場

北淡町震災記念公園の憩いの広場には、
「被災せし 淡路の島のヘリポート かの
あたりにも よもぎ萌えぬむ」
と書かれた皇后陛下御歌碑がある。平成 7
年 1 月 31 日、天皇・皇后両陛下がこの場所
にヘリコプターでお降りになった折り、被
災者への励ましの心を込めて皇后陛下がお
詠みになられた歌である。

また、広場には坂村真民・作の「念ずれば
花ひらく」と書かれた句碑もあった。

広場のピラミッドのようなモニュメント
は、「べっちゃんないロック」と呼ばれる鎮魂
碑である。べっちゃんないとは、大したこと
はない、大丈夫だという意味の方言。



坂村真民の句碑



坂村真民の俳句



鎮魂碑「べっちゃんないロック」

あとがき

旅はどこに行っても楽しいものであるが、
今回の「淡路島巡りの旅」は、ことのほか
満足できるものであった。

最後の見学先・北淡町震災記念公園を 15
時 15 分頃に出発し、北淡 IC から神戸淡路
鳴門自動車道に乗ったのが 15 時 30 分であ
った。高松道の板野 IC で降りて、藍住 IC
から徳島道に入り自宅に帰り着いたのは
18 時 10 分であった。途中、1 回トイレ休
憩をしたものの 2 時間 40 分で帰り着いた。
こんな近場に、こんなに素晴らしい観光地
が存在したとは驚きである。

淡路夢舞台の淡路国営明石海峡公園は、
今シーズンでないことと、時間の余裕がな
かったためパスした。4 月中旬にはチュー
リップやアイリスなど約 250 品種、60 万本
球根植物が開花するという。その季節には
再度行ってみたいものである。

七福神巡りでは、どこに行っても「5 年
後には売り上げが現在の 2 倍となり、四国
一のコンサルタントになりますように」と
念じた。「念ずれば花ひらく」ことを信じて。

2008 年 2 月 12 日 右城猛